「最後まで住み慣れた施設で過ごしたい」を叶えるために
ー介護する私たちが知っておきたいことー

これからは、施設で最期を迎える方が増えてきます。
ご本人やご家族が、施設で穏やかにそのときを過ごせるよう、
施設での“看取り”について知っておきましょう。

＜ 看取り期に見られる自然な身体の変化 ＞

食事のこと

だんだん食べられなくなっていきます。
食べたいものを、食べたい分だけ。
水分も入らなければ、口を湿らせる程度でも。

介護体験談

絶食の指示が出ていたのですが、家族の希望を受け、多職種で話し合い、家族の介助で果物ペーストを食べてもらうようにしました。本人の発言はありませんでしたが、口を開ける様子から喜んでいると家族は感じられ、お別れの準備を支援することができました。

言動・行動のこと

よく分からないことを言うようになります。
それは脳の血流低下で起こる、自然なこと。
無理に正そうとせず、聞きましょう。

排泄のこと

筋力が落ち、尿や便を失禁しやすくなります。
血圧が下がり尿がほとんど出なくなったら、
お別れが近づいているサインです。

意識のこと

眠っている時間が増えてきます。
それは、苦痛がやわらいでいる証拠。
無理に起こさず、眠らせましょう。

呼吸のこと

ゴロ　ゴロ
ゴロ　ゴロ

呼吸が荒くなったりのどがゴロゴロ言い出しても、
実際は苦しさを感じていないと言われています。
ご家族に来てもらい、お別れの準備をしましょう。

＜ ご家族との向き合い方 ＞

心配なこと・困っていることに耳を傾け、いつでも相談に乗ることができると伝え、寄り添いましょう。

ご本人はどのようなケアを望むと思うか、
ご家族と繰り返し話し合いましょう。

ご家族の体調やつらい気持ちに気を配りましょう。

ご家族ができることを提案し、可能な範囲で付き添ってもらいましょう。
返事がなくても耳や肌で感じることができます。

手を握る
身体をさする

顔を拭く
口の中を湿らせる

いつも通り話しかける

お気に入りの音楽を流す

お別れの後は…

ご家族の悲しみやつらい気
持ちを聴きましょう。

介護職の皆さんへ

看取りの時期には想定していた状況と違うことが起きて、ご本人やご家族と決めていた通りにならないこともあります。
そんな時は、迷って当たり前です。
一人で抱え込まず、医療・介護スタッフみんなでケアを振り返り共有しましょう。

もっと詳しく知りたい方は…

①「これからの過ごし方について」 OPTIM
http;//gankanwa.umin.jp/pdf/mitori02.pdf
② 介護職のための医療とのつきあいかた（メディカ出版）
③ 在宅ぼんちネット「ぼんち みまたん講座」エンディングノート・人生会議

①
③

<ポスターに関するお問い合わせ先>
都城市いきいき長寿課　☎ 0986-23-2685
三股町高齢者支援課　☎ 0986-52-8634
都城市・三股町在宅医療・介護連携相談支援センター☎ 090－4980－7830

発行：令和５年３月　都城市・三股町在宅医療・介護連携推進協議会　在宅医療・介護部会A